

0.1 集中型（合理式）モデル

以下に、モジュールの仕様概要と操作手順を示す。

表.1 モジュールの仕様概要

No	項目		内容
1	DLL 名		McRationalMethod.DLL
2	概要		合理式により流出量を算出する。
3	送受信のパターン	受信	①降雨量 伝送仕様：1次元時系列 セル内変数：SCALOR_RAIN_FALL (mm)
		送信	①流量 伝送仕様：1次元時系列 セル内変数：QUANTITY_OF_WATER_FLOW (m3/s)
4	接続方法	受信	・要素接続は、1次元時系列で行い、降雨量を入力する。 ・上記以外の接続は、できません。
		送信	・要素接続は、1次元時系列で行い、流量が出力される。 ・上記以外の接続は、できません。
5	基礎式		$Q = \frac{1}{3.6} f \times R \times A \quad \text{①}$ <p> Q : 流出量(m3/s) f : 流出係数 R : 降雨量(mm) A : 流域面積(km2) </p>
6	備考		
7	サンプルプロジェクト		・集中型（合理式）.prjdb

(1) 流量出力パターンの場合

1) モデル接続

モデルの接続方法を、以下に示す。

①要素の配置を行い、下図に示すモジュールを設定する。

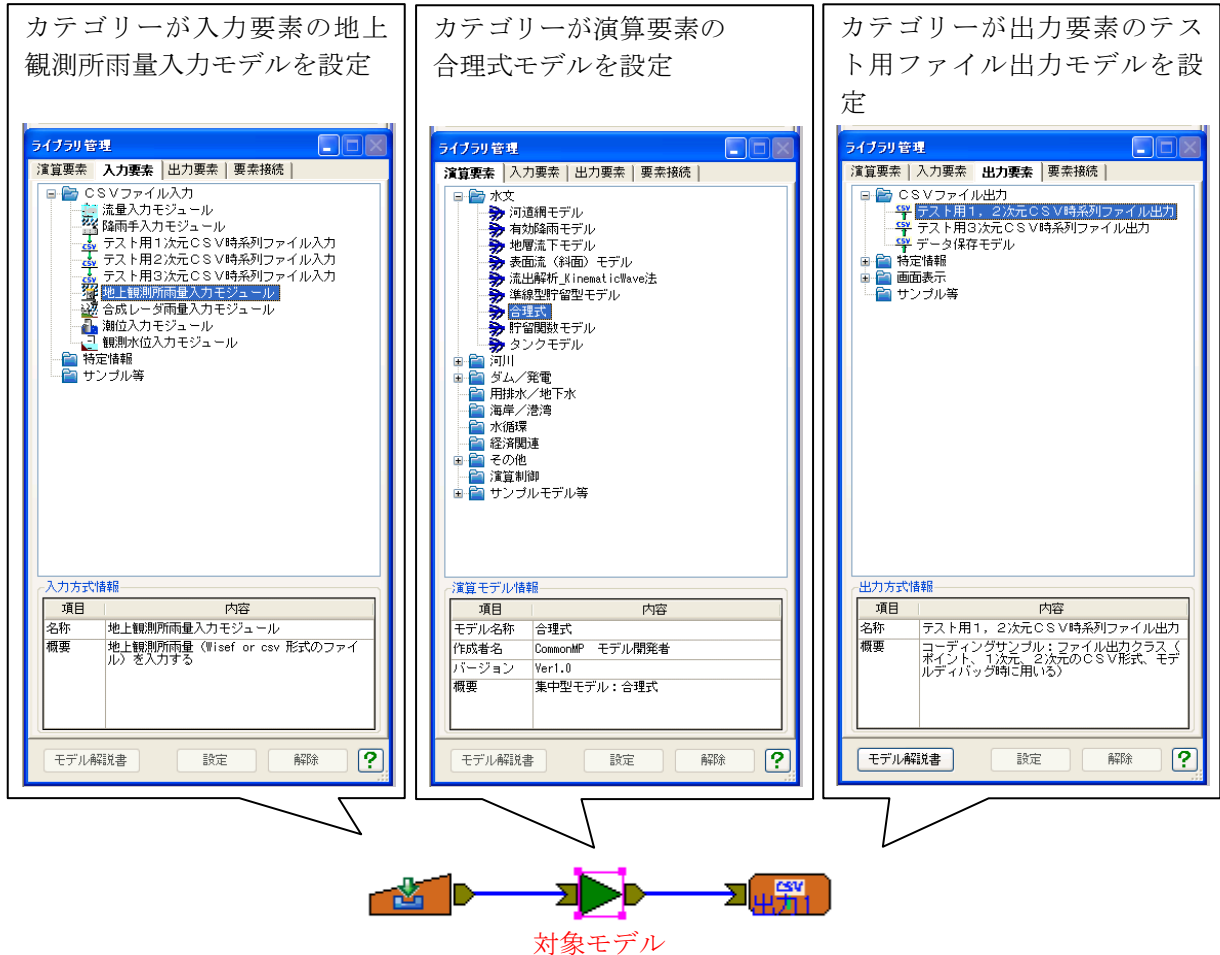
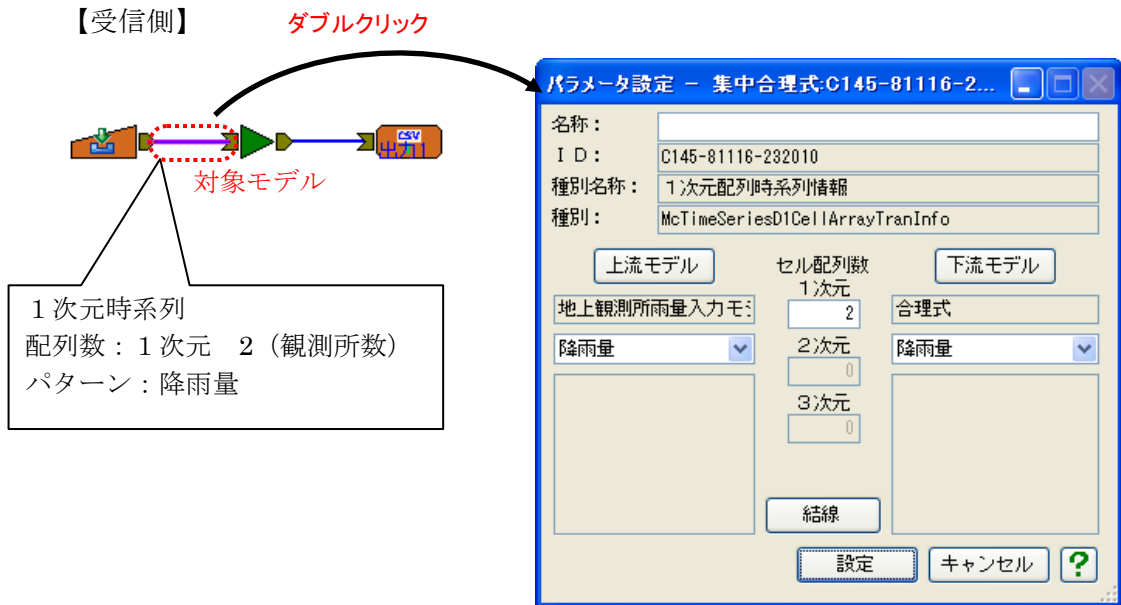


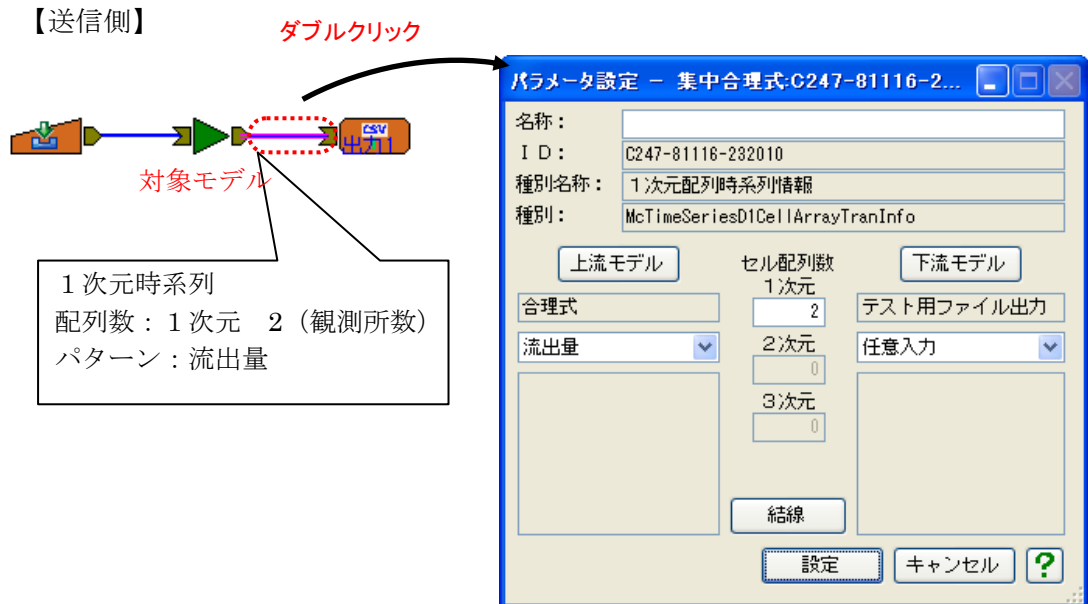
図.1 モデル接続

②要素接続は、以下の通り設定する。



※本画面は要素接続時にダブルクリック、または右クリックメニューから表示を行う。

図.2 要素接続（受信側）



※本画面は要素接続時にダブルクリック、または右クリックメニューから表示を行う。

図.3 要素接続（送信側）

2) パラメータ設定画面

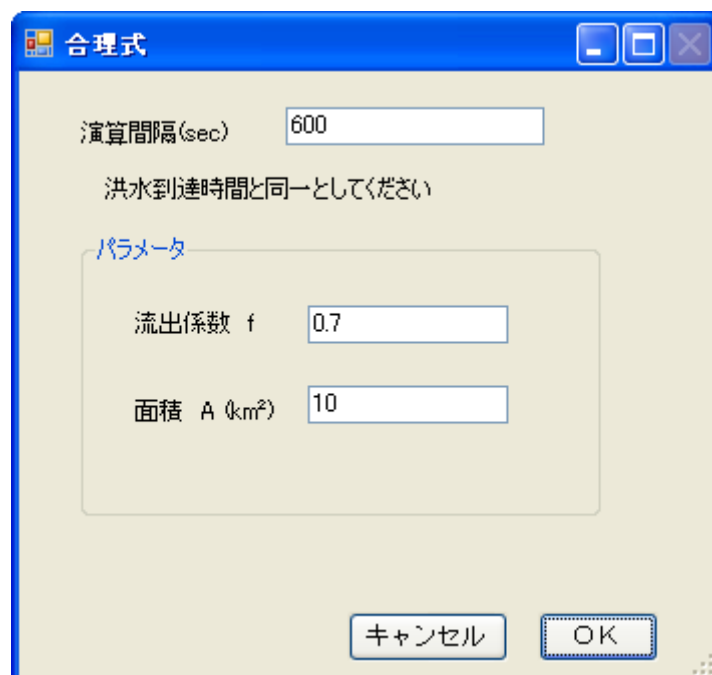


図.4 個別 GUI レイアウト図 (集中型 (合理式) モデル)

3) 入力データ

1次元時系列の雨量データを入力する。

時間	観測所 1	観測所 2
yyyy/MM/dd HH:mm:ss	雨量	雨量
yyyy/MM/dd HH:mm:ss	:	:
yyyy/MM/dd HH:mm:ss	:	:
:	:	:
:	:	:

図.5 入力データフォーマット

4) 出力データ

1次元時系列の流量データが出力される。

時間	観測所 1	観測所 2
yyyy/MM/dd HH:mm:ss	流量	流量
yyyy/MM/dd HH:mm:ss	:	:
yyyy/MM/dd HH:mm:ss	:	:
:	:	:
:	:	:

図.6 伝送データイメージ